

令和7年度 学校評価の4点セット整理票(学校自己評価報告書)

令和(7)年 (7)月 (20)日 時点

学校の教育目標:「主体的に考えて行動し(自主), 精力強く学んで新しい価値を見いだし(創造), 他者と協働しながらたくましく生きる(友愛)生徒の育成

4段階評価

働き方改革の推進	ワークライフバランスの実現	管理職	①ストレス診断「総合健康リスク」60以下 ②時間外在校等時間 全教職員の月平均25時間以下 ③「週3日5時間授業の取組により子どもと向き合う時間を確保できている」と肯定的に回答する職員の割合90%以上	学校	①会議の縮減 ②「年次有給休暇」の計画行使	①運営委員会を月2回以上開催し、会議の精選を積極的に行い、会議時間40分以内を目指す。 ②管理職は、職員が月1回以上取得できるように呼びかけ・調整する。	100%	100%	◇達成指標①⇒結果待ち ◇達成指標② ⇒4月～6月の平均24.7時間で達成率101%	◇達成指標①②③ ・妥当な指標のため継続する。 ◆取組指標① ・妥当な指標のため継続する。 ◆取組指標② ・達成することができていないため継続する。	A	◆取組指標② ・毎月の年休取得希望調査で全員の取得を徹底する。
									月 4月 5月 6月 平均 超過時間の平均 25 22 27 24.7			

学校の教育目標:「主体的に考えて行動し(自主), 粘り強く学んで新しい価値を見いだし(創造), 他者と協働しながらたくましく生きる(友愛)生徒の育成」

育成を目指す資質・能力:「自己表現力」「自己指導能力」

(A:十分達成 B:おおむね達成 C:課題がある D:大いに課題がある)

4段階評価

重点目標	担当	達成指標	分担	重点的取組	取組指標	学習指導要領が目指す資質・能力との関連 知識及び技能 力思・考・表現・力利・現・力利等 人間に向か性等 う	取組実施指標率 率標の	検証・改善【 1 】回目				学校関係者評価 学校関係者意見 評価																			
								取組指標に対する取組状況の確認	達成指標に対する達成状況の確認	達成指標・取組指標の妥当性を検証	自己評価 取組別 全体																				
自分の言葉で豊かに表現する力の育成	研究主任	(A)定期テストにおいて、記述式問題の解答規準A~Bの教科平均13人(70%)以上 <table border="1"><tr><th></th><th>達成率</th><th>レベル</th></tr><tr><td>正解</td><td>100%</td><td>A</td></tr><tr><td></td><td>100%未満~80%</td><td>B</td></tr><tr><td>不正解</td><td>80%未満~30%</td><td>C</td></tr><tr><td></td><td>30%未満~0%</td><td>D</td></tr><tr><td></td><td>無回答</td><td>E</td></tr></table> (B)各種学力調査における各教科の思考力・判断力・表現力の問題において正答率が全国平均以上 (C)以下のアンケート調査で肯定的回答17人(89%)以上 ◇「授業で積極的に表現できた。」 ◇「学級の中で自分の思いや考えを分かりやすく伝えることができている。」 ◇「授業が分かる。」		達成率	レベル	正解	100%	A		100%未満~80%	B	不正解	80%未満~30%	C		30%未満~0%	D		無回答	E	学校	(1)学力向上対策「本校の重点1・2・3」等に基づく授業実践	①授業者は、「情報の取り出し→思考・判断・表現」を意識した授業を取り組む。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>						
	達成率	レベル																													
正解	100%	A																													
	100%未満~80%	B																													
不正解	80%未満~30%	C																													
	30%未満~0%	D																													
	無回答	E																													
②授業者は、単元計画に基づき、発表させる前に考えを深める「必然性をもったペア・グループ活動」を行う。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																													
③授業者は、毎時間「振り返り」を行い、見取りを行う。		<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																												
④授業者は、授業の流れを毎時間、生徒に示す。			<input type="radio"/>																												
⑤5教科担当者は、朝学習や週末課題で弱点補強に取り組む。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																													
⑥国語科は、朝学習時に、ワークシートを活用した「コラム学習」を2週間に1回行う。(担任は、短学活で発表する場を設定する。)	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																													
⑦授業者は、単元または1単位時間で、「表現する場」、各自の「思いを伝える場」を設定する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																													
家庭	(2)「書く力」の育成	⑧授業者は「表現モデル」をもとに、生徒に教科の特性に応じた根拠ある表現について指導し、授業での見とりを行う。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																											
		⑨研究主任は、「鶴中スイッチ」の生徒(生徒会含む)・教師の振り返りを学期に1回以上行う。			<input type="radio"/>																										
		⑩研究主任は、生徒アンケート等の結果を踏まえた授業づくり集会を学期に1回以上開催する。			<input type="radio"/>																										
		⑪学年担当者は、地域協育コーディネーターと連携し、郷土愛を育むための地域との交流学習等を学期に1回以上実施する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																											
		⑫家庭は、定期テスト前「家庭学習強化週間」において、「記録表」を用いて確認をする。		<input type="radio"/>																											
		⑬保護者は、学校行事や学校公開に積極的な参加。		<input type="radio"/>																											
		⑭地域の方は、地域協育コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーとして学期に1回程度授業に参加する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																											
教務主任	(D)以下のアンケート調査で全校生徒(19名)が肯定的回答 ◇「目標の実現のために努力した。」 ◇「学校が楽しい」 (E)HyperQU調査において「要支援群」の生徒0人	学校	(9)目標設定と振り返りの充実	⑮担任は、毎学期はじめと終わりに「未来を考えキャリア・ノート」を活用した目標設定や振り返りを行う。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																									
				⑯各担当者は、各種行事等において、校訓と連動した目的のもとで、取組を進める。		<input type="radio"/>																									
				⑰担任は、毎週月曜日に「人間関係づくりプログラム」(鶴中スマイルタイム)を実施する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																									
				⑱教育相談コーディネーターは、「人間関係づくりプログラム」の毎月の計画を作成し、提案する。		<input type="radio"/>																									
				⑲各学年は、月に1回の「いじめアンケート」、学期に2回の「生活アンケート」の結果をもとにした個別面談を行う。		<input type="radio"/>																									
		家庭	(11)家庭学習時間の確保 (12)生徒が設定した目標と振り返りの確認	⑳家庭は、定期テスト前「家庭学習強化週間」において、「記録表」を用いて確認をする。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																									
				㉑保護者は、学期はじめと終わりに「未来を考えキャリア・ノート」を子どもと確認し、励ましのコメントを記入する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																									
				㉒地域の方は、地域協育コーディネーターと連携し、ゲストティーチャーとして学期に1回程度授業に参加する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																									
				㉓地域の事業所は、学年担当者と連携し、福祉体験や交流学習を年間1回以上実施する。	<input type="radio"/>	<input checked="" type="radio"/>																									

ワークライフバランスの実現	管理職	①ストレス診断「総合健康リスク」60以下 ②時間外在校等時間 全教職員の月平均25時間以下 ③「週3日5時間授業の取組により子どもと向き合う時間を確保できている」と肯定的に回答する職員の割合100%	学校	①会議の縮減	①運営委員会を月2回以上開催し、会議の精選を積極的に行い、会議時間40分以内を目指す。							
				②「年次有給休暇」の計画行使	②管理職は、職員が月1回以上取得できるように呼びかけ・調整する。							